

(訳者コメント)

漢和防務評論ネット版2月号に中国空母の最新状況に関する記事がありましたので紹介します。

おおむね予想通り、軍事技術的には中国としては妥当な方向に進んでいると思います。国内的に失敗が許されないので結局無難な方向を選んだということでしょう。

しかし戦力化するには相当の期間が必要になるでしょうし、戦力化した時点で役立たず中国海軍の”お荷物”になることは明白です。中国的国威発揚以外に目的を見出せません。

**KDR 上海、武漢特電：**

西側及びロシアメディアの一部は、“中国の最初の国産空母は、満載排水量が11万トン、原子力推進、電磁カタパルト装備”等々、怪しげな報道を行ってきたが、中国国産空母設計部署に近いある情報源は、最近 KDR に対し細部について次のように語った。

情報源は、“上述の報道は正しくない。1 艘目の空母の全体設計は、中船重工（中国船舶重工集团公司）第一研究所で基本的に完了し、現在は細部の修正、調整段階にある。これが建造期間が延び延びになっている主な理由である”と述べた。また情報源は“全体の設計案が基本的に定まった後、設計要員は大連造船会社と協力し、訓練空母「遼寧号」の実験中に発生した各種問題点に対し、また国産空母の細部の配置等に対し、検討し設計変更を行った。運用してみなければ発見できない問題点があった”と述べた。

これは、西側媒体が初めて確認した「中国空母の細部の設計変更、修正」に関する情報である。

情報源は、“「遼寧号」は確かに貴方が言うように REPROGRAMING（完全な再設計）方式を採用した。したがって内部は完全に中国が設計し、生産したものである。当然、1 艘目の国産空母の設計に役立たせ、経験を積むためでもある。船体を除けば、「遼寧号」は中国独自の設計で製造された最初の空母であると中国造船工業界は自負している”と述べた。

1 艘目の国産空母は、新たに設計されるのか、或いは基本的に「遼寧号」を踏襲するのか？の質問に情報源は、“当然修正される個所はある。主要な構造は「遼寧号」方式を採用するが、「空母試験艦」ではない”と述べた。

上述の談話が意味するところは以下の通り。

中国の 1 艘目の国産空母は、「遼寧号」の基本設計案を踏襲し、通常動力、スキージャンプ甲板、排水量は「遼寧号」にほぼ同じということになる。しかし武器、レーダーの配置は「遼寧号」試験艦とは異なる。

**KDR** は、1 艘目の国産空母は、**052D** 型ミサイル駆逐艦と同じアクティブ・フェーズド・アレイ・レーダーを搭載する可能性があると考えている。当然これは **KDR** の推測にすぎない。

情報源は、大連を基地とする中船重工が 1 艘目の国産空母の設計を担当したことを確認した。主な設計は同重工の第一研究所が行い、論証及び改修作業は大連造船所が密接に協力したという。このことは、中船重工が 1 艘目の国産空母の知的財産権を江南造船所に提供することを拒否している理由であろう。

**KDR** が掌握した状況は以下の通り。

1 艘目及び 2 艘目の国産空母は、基本設計が同じ、通常動力、スキージャンプ甲板、**J-15** 戦闘機を採用する。**J-15** の訓練はすでに開始されている。

3 艘目の空母は、現在計画中である。ある西側メディアの報道によると、4 艘の空母建造を計画しているという。これに対し情報源は、“数は未だ決まっていない。結局何艘建造するのか？これは海軍が決めることで、造船業界はタッチしない”と述べた。

以上